

# 保育園・幼稚園・小学校の「遊び」と「学び」をつなげよう

生駒市立壱分小学校 生駒市立壱分幼稚園  
社会福祉法人 晋栄福祉会 いちぶちどり保育園

## 背景

壱分小学校区では、公立校園での交流は行われてきたが、地域の保育園と交流する機会は少なかった。「幼小接続」にあたっては、地域の保育園・幼稚園・小学校が共に子どもの育ちを見つめ合い、連携を深めていくことが望まれる。これらを踏まえ、3校園の教職員が連携し、子どもたちにとって楽しい交流活動を計画するとともに、保、幼、小の接続が今後も継続していくことができるよう、カリキュラムの編成について研究・協議していきたく考えた。

- ① 3校園が交流活動のねらいを出し合い、育てたい姿や子どもの学びを共通理解する。保幼小それぞれの環境の違いを理解し合いながら、教職員同士の連携を深め、お互いに実りのある交流活動を進めていく。
- ② 接続期の子どもの育ちや生活上の課題について協議し、それらを踏まえて、アプローチ・スタート期の終わりに育って欲しい力を3つの視点（自主性・主体性、コミュニケーション力、からだづくり）として洗い出す。これらの視点をもとにした活動を積極的に活動の中に取り入れ、学びにつながる力の育成を図る。

## 自主性・主体性

## コミュニケーション力

## からだづくり

## 職員連携

### ☆みんなで交流しよう (鬼ごっこ・校内めぐり)

○活動のねらい  
幼稚園・保育園

- ・1年生に親しみをもち、一緒に遊ぶ楽しさを感じる。
- ・校舎見学を通して小学校に関心をもつ。

小学校

- ・学校の施設に関心をもち、幼児と一緒に楽しく遊ぼうとする。
- ・幼児のことがわかり、自分との関わりに気付く。



○活動の姿

幼稚園・保育園

- ・初めての環境でも1年生がペアを組んで一緒に過ごしてくれたことで安心感をもって活動に臨むことができた。

小学校

- ・鬼ごっこでタッチされた幼児を助けてあげたり、優しくタッチしたりするなど、幼児を気遣う姿が見られた。

◎成果

- ・初めての出会いの場を小学校で行い、遊具で遊んだり石木鬼をしたりして遊ぶことができた。1年生は自信をもち、幼児は学校への関心を寄せながら、活動を楽しむことができた。今後のつながりをもつ良い機会となった。

### ☆みんなで水、砂、泥遊びをしよう (泥団子・シャボン玉・色水・砂場)

○活動のねらい  
幼稚園・保育園

- ・水や砂、土、泥などの感触を味わい、1年生と一緒に試したり工夫したりして遊ぶことを楽しむ。

小学校

- ・夏の遊びに関心をもち、幼児と仲良く遊ぼうとする。



○活動の姿

幼稚園・保育園

- ・毎日の遊びの経験を活かし、自分たちで遊びを進め、自信をもって遊び方を伝える姿があった。
- ・遊びの中で様々な感触を味わい、夏ならではの遊びを楽しんでいた。

小学校

- ・ペアになった幼児とコミュニケーションをとり、遊ぶ順番や遊び方を決める姿が見られた。
- ・様々な素材に触れ、夏の遊びを楽しむ姿が見られた。

◎成果

- ・3校園で夏の遊びを開放的に遊ぶ中で、自分のやりたいことや、ペアの子がやりたいことに耳を傾けながら、一緒に活動をする楽しさを共有できた。

### ☆みんなで秋の自然探しをしよう (地域の公園で一緒に遊ぼう)

○活動のねらい  
幼稚園・保育園

- ・秋の自然に関心をもち、1年生と一緒に自然物を集めて遊ぶことを楽しむ。

小学校

- ・幼児と一緒に秋の自然物を見つける。

○活動の姿

幼稚園・保育園

- ・1年生と共通の目的をもって自然物探しを十分に楽しんだ。
- ・活動の振り返りでは、自分なりの言葉で気持ちを伝える姿があった。

小学校

- ・秋の自然物を探る中で、自分の知っていることを幼児に教えている姿があった。
- ・木の実などを幼児と見合っ楽しんでそうに会話する姿が見られた。

◎成果

- ・3校園での交流に慣れ、1年生を頼りにしながら協力して活動ができた。グループで同じ目的に向かって活動をする中で子どもたちが互いに声をかけ、一緒に行動しようとする意識が芽生えた。



### ☆なかよしあきまつりをしよう

○活動のねらい

幼稚園・保育園

- ・秋の自然物を使って1年生と遊んだりお店巡りをしたりすることを楽しむ。

小学校

- ・秋の自然物を使ってみんなで遊ぶことの楽しさに気付くことができる。



○活動の姿

幼稚園・保育園

- ・1年生が考えた遊びを存分に楽しみ、繰り返し挑戦し、遊びこむ姿があった。
- ・案内係の1年生を頼りに、お店屋さんを仲良く巡ることができた。

小学校

- ・幼児が楽しめるような表示やルールを工夫する姿が見られた。
- ・幼児の思いを聞いたり、おすすめのお店に案内したりして楽しませようとしていた。
- ・保幼小それぞれが用意したどんぐりゴマで一緒に遊ぶことができた。

◎成果

- ・前回の交流で集めた自然物を活かし、つながりのある活動になった。1年生は、幼児の立場になって遊びやルールを考え、幼児は交流を楽しみにどんぐりゴマを作るなど、交流当日以外にも、それぞれが一緒に創り上げていく交流活動になった。



## 交流活動の成果~3つの視点から~

◎幼児は季節の遊びを1年生と一緒にしたり、小学校で遊んだりすることを重ねる中で、不安なく安心や期待をもって活動できた。また1年生は生活科を通じた交流活動で、見る・触れる・作る・探す・遊ぶといった学習活動をする中で、自分で考えたり振り返ったりする主体的な姿がみられるようになった。

◎1年生と幼児のペアに最初は緊張感をもつ姿もあったが、一緒に遊ぶ交流をする中で、互いに名前を呼び合ったり、遊び方を教えたりする関わりが変わっていった。活動後の振り返りの場では、感じたことや考えた事を自分なりの言葉で伝えようとするようになった。

◎からだづくりの視点から交流内容を計画し、遊びの中で体を動かして楽しむことができた。小学校、幼稚園、地域の公園など、交流の場まで歩いて行き、一緒に遊ぶ活動を楽しむことができた。

### ☆次年度以降への課題

- ・交流当日だけではなく、3校園がそれぞれ主体的に参加できる形の活動を取り入れていくことや、子ども同士の関係づくりをさらに深められるような遊びの「しかけ」を、実践を通して取り入れていきたい。

### ☆教職員連携による成果と課題

- ・子どもたち同士が主体的に活動し、互いの仲を深めて欲しいという思いで保幼小の教職員が一体となってスタートした取組であった。育てたい子ども像を共に描き話し合ったことで、交流を深める「しかけ」となるアイデアが生まれた。次年度以降も継続的に取り組むことができるカリキュラムの作成を目指して、教職員同士の連携を深めていきたい。

☆教職員打ち合わせ  
・保幼小接続に向けた研究視点を検討する。  
☆年間交流計画策定  
・保、幼、小の3校園での日程調整、交流内容の検討を行う。

☆交流後の振り返り・協議  
・幼児と1年生の関わりに着目し、自然な形で一緒に遊ぶ内容を検討する。  
☆次回交流について  
・ねらいと経験させたい内容の共通理解を図る。

☆交流後の振り返り・協議  
・遊びでの子どもの気づきや学びを見とり、意見交換をして理解を深める。  
・子どもたち自身が活動を振り返り、自分の思いを言葉で表す場を設定する。  
・3校園混合グループ活動を検討する。  
・事前の下見を共に行う。

☆交流後の振り返り・協議  
・自然物を生かしたつながりのある交流活動を検討する。  
・招く／招かれるだけの交流にならないよう、保幼小それぞれの子供たちが活動に主体的に参加できるような遊びの「しかけ」を設定する。  
・1年生と幼児のペアのあり方について、次年度以降の交流に向けて協議する。

